

令和4年度第2回恵庭市社会福祉審議会・児童福祉専門部会
会議録（概要）

1. 日時 令和4年12月6日（火）13時30分～14時30分

2. 場所：恵庭市民会館 2階 視聴覚室

3. 出席者

【委員】小田委員・川村委員・佐々木委員・三上委員・秋元委員・澤崎委員・高橋委員

【事務局】伊東子ども未来部長・高橋子ども未来部次長・足立保健センター長・狩野子ども家庭課長・大林幼児保育課長・佐々木子ども発達支援センター長・深田すみれ保育園長・高橋保健課長・石田幼児保育課主査・中山幼児保育課主査・葛岡子ども発達支援センター主査・庄司保健課主査・金子子ども家庭課主査・前野子ども家庭課主査・高橋子ども家庭課主査・村仲子ども家庭課主査

4. 内容

（1）開会

【新任委員の紹介】

塩田委員が桑山委員へ交代(恵庭市民生委員児童委員連絡協議会)。所用により本日欠席であるため、次回あらためて紹介。

（2）挨拶

（3）報告

①教育・保育施設の認可定員の変更について

【質疑応答】

質疑なし

（4）報告

①第2期えにわっこ☆すこやかプランの中間見直しについて(案)

【質疑応答】

1. 教育・保育の量の見込みと確保方策について

Q P5にある1号認定と2号認定のうち教育ニーズの強い子どもについて、どのような違いがあるのか、あるいは恵庭市の政策としてどのように違いを整理されているか。

A 計画当初に実施したアンケート調査の項目の中に、保育の必要性があって預かりが必要な方に対して「幼稚園または幼稚園預かり保育を利用したいか」という設問があり、利用したいと回答した方を「教育ニーズの強い子ども」と位置づけ、量の見込み(計画値)を算出した。それに対し、1号認定(預かり保育)や2号認定として確保方策を講じた形となっている。

Q P5の※1には実態に基づき1号認定とあるが、位置づけとしては1号認定になるのか。もしくは整理上は2号認定となるのか。

A 計画策定当時、幼稚園が4園あり、1号認定の確保方策が多かったことから、当初は1号認定の園児については預かり保育を利用することで対応を想定していたが、現状は4園全て認定こども園に移行したため、1号認定(預かり保

育含む)もしくは2号認定いずれかで対応している。

部会長 P5の表の区分、特に「教育ニーズの強い子ども」という表現は他の自治体でも使われているのか。

A お見込みの通り。

2. 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策について

質疑なし

3. 子ども・子育て支援施策

部会長 別紙6コミュニティスクール及び別紙8学校運営協議会制度及び学校評議員制度について、他市ではコミュニティスクール事業の中で自主的に学校運営協議会を行っているという認識であったが、コミュニティスクール事業を学校教育の中に位置づけることになったためか。なぜ変更となったのか。

A 学校事業等を決める過程に地域の方が参画し、地域全体で考えていくということを国が進めており、順次切り替えていく流れの一環でコミュニティスクールが学校運営協議会の各部会へ機能移転となったと聞いている。

Q 市内にコミュニティスクールを展開している校区は無くなったということか。それに伴い、コミュニティスクールで担っていた機能も全て学校運営協議会に移行したのか。その際、無くなった機能等はあったか。

A 生涯学習や青少年健全育成をメインにやっていたコミュニティスクール事業を地域との関りを含めて学校運営協議会に移行していると認識している。

(5) その他

部会長 報道等で取り上げられている保育園での不適切な対応について、今後恵庭市においても質の確保をどのように担保するかということの取り組みを、委員の皆様を含めて考えていかなければと考えている。何かあれば議題にのせていただくなり、委員の皆様からもご意見をいただきたい。

A 基本目標2(4)9に「保育の質の向上」としてプランの中に事業を挙げているので、事業内容と取り組みの方向は今後検証していく。

【事務連絡】

- ・次回会議開催時期予定（令和5年2月頃）の周知